



2022年(令和4年)

5月2日

(月曜日)

発行所 電波新聞社

東京本社

〒141-8715
東京都品川区東五反田 1-11-15

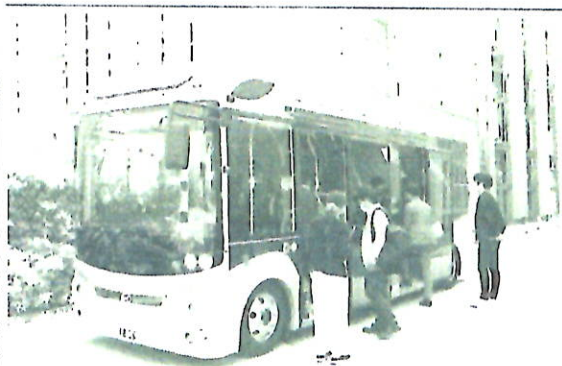
©03(3445)6111(大代表)
大阪本社

〒541-0045
大阪府中央区道修町3-2-6
(ウエムラビル4階)

©06(6203)3361(大代表)
©電波新聞社 2022

九州MaaSマッチング交流会 オープニングイベント開催

EVバス試乗や事例報告



あいさつする浦代表理事



【福岡】九州経済連合会とEMOBIAは、モビリティサービスを通じた移動課題の解決と地域活性化を目指す「九州MaaSマッチング交流会」を立ち上げる。これに先立ち4月20日、福岡システムLSI総合開発センター（福岡市早良区）でオープニングイベントを開き、自治体の関係者ら76人が参加した。イベントでは、EV Motors Japan（北九州市若松区）が手掛けるEV（電気自動車）マイクロバスの試乗会が行われ、シーサイドももち地区を走行。参加者は、低消費電力システムで長距離走行を実現するマイクロバスの走行性能を体感した。

その後の講演会に登壇した佐賀県基山町の松田一也町長は、経産省の「スマートモビリティチャレンジ」の一環として行った実証実験について報告。シャトルバスとオンデマンド交通の活用を検証した同町の事例を紹介した。熊本学園大学の溝上章志教授は、熊本県での事例を発表。「日本におけるMaaSはアプリの開発が先行したり、囲い込みがメインになったりすることも多い。だが、既存のアプリなども活用してデータをオープンにし、地域課題の解決を第一に進めることが求められる」と強調した。あいさつに立った九経連の升本喜之観光社会基盤部長は「地域課題の解決に向けて公共交通機関の活用について考えることは、今後目指すべきグリーン社会にとっても重要」と、MaaSのビジネスマッチングの意義を述べた。

EVマイクロバスの試乗会も行われた。第1回の交流会は、今年23日に電気ビル共創館（福岡市中央区）で開催予定。基調講演や地域交通に関する相談会ブースを設ける。

EMOBIAの浦正勝代表理事は「事業者同士の交流が重要だと思っている。こうしたアクションを、MaaS推進の先行事例として全国に発信していければ」とコメント。「地域公共交通だけでなく、地域の活力の維持やまちづくりのツールとして役立てられる」と期待を示した。